

# 堀町遺跡(第5次)発掘調査 現地説明会資料

～松阪市朝田町～

2012.12.1 三重県埋蔵文化財センター



井戸から出土した土器・陶磁器（平安時代末～鎌倉時代）



「盛法寺」と墨書きされた陶器（平安時代）



井戸の水溜めに用いられた曲物（平安時代）



墨書き土器「南」（平安時代）

調査遺跡名：堀町遺跡（第5次）  
所在地：三重県松阪市朝田町  
調査面積：約 4,400 m<sup>2</sup>

今回の調査では、井戸や溝などからコンテナ約100箱分の土器・陶磁器が出土しました。なかでも、「盛法寺」と墨書きされた陶器（平安時代末期）の出土は注目されます。具体的な名前が書かれた遺物の出土は、本遺跡では初めてのことです。

墨書き土器に記された固有名詞は、土器そのものや使用者の属する場所を示す事例が多いことから、堀町遺跡の近辺に未知の古代寺院が存在した可能性が出てきました。この「盛法寺」が、堀町遺跡の性格や朝田寺の成り立ちに関する謎を解き明かす鍵になるのではないかと期待されます。

原因事業名：高度水利機能確保基盤整備事業（朝見上地区）  
調査実施機関：三重県埋蔵文化財センター  
調査期間：平成24年5月23日～平成25年1月17日（予定）



発掘調査風景（国道42号バイパス西側、北から）

堀町遺跡は、柳田川と松阪市街地の間に広がる平野（標高2～3m）に位置する弥生時代から中世の集落跡です。周辺には、条里地割とよばれる古代以来の耕地区画がよく残っており、遺跡の南には、京と斎宮を結ぶ古代の幹線道が通過していたと考えられています。

これまでの調査（第1～4次）では、平安時代の大量の木製祭祀具や、ひらがなを記した墨書き土器などが出土しており、遺跡付近に残る「斎宮」の地名などとあわせて、斎宮に関わる何らかの施設が存在した可能性が指摘されています。

今回の調査（第5次）においても、平安時代後期から鎌倉時代（約1000～800年前）の掘立柱建物8棟、井戸9基以上、その他多数の溝・土坑が見つかるなど、多くの成果が得られました。



# 堀町遺跡調査区位置図 (バイパス～朝田寺そば)

